

第7回地域のまち・絆づくり検討委員会

1. 開催日時 平成27年5月1日（金） 13:30～15:00
2. 開催場所 市役所15階 1504会議室
3. 出席委員 【出席委員14名】
青木委員、石川委員、大島委員、古賀委員、楠下委員、角委員、
田代委員、十時委員、長柄委員、西頭委員、日高委員、平山委員、
森田委員、山口委員
4. 傍聴者 1名
5. 議題 (1) 委員長選出
(2) 第6回検討委員会における主な委員意見及び
中間とりまとめについて
(3) 今後のスケジュール（案）及び
地域のまち・絆づくり検討委員会アウトプットイメージ
(4) 公民館における地域コミュニティ支援機能について
(5) 企業と地域づくりについて

6. 議事概要

議題「第6回検討委員会における主な意見及び中間とりまとめ」について

議題「今後のスケジュール（案）及び

地域のまち・絆づくり検討委員会アウトプットイメージ」について事務局より説明

【委員長】 まず、議題（2）中間とりまとめについて報告をいただいたが、何かご意見、ご質問ありませんか。

（特に意見なし）

【委員長】 この内容については前委員長と副委員長で確認いただいているということ

ですので、中間とりまとめはこれでよろしいか。

(特に意見なし)

【委員長】 それでは、(3) 今後のスケジュール(案)及び本検討委員会のアウトプットイメージについて、何かご意見等がありますでしょうか。

(特に意見なし)

【委員長】 では、このスケジュールで検討を進めていきます。次回は6月開催予定。

議題「公民館における地域コミュニティ支援機能」について

【委員長】 ご質問、ご意見はありますか。

【委員】 全体のスケジュールによると、提言から各種施策の実施検討までつくられるということだが、今回の中間とりまとめの報告の中に公民館が入っているが、最終提言のイメージとしては、最終提言の中に公民館事業をどうするかということが入るのか。

実際には両輪で動かないといけないわけですから、何か公民館だけの事業を施策で置くというイメージじゃないようにも思う。公民館はいろいろな施策にかかわると思うが、自治協議会やコミュニティの今後の推進のあり方に対しての公民館の役割という形で記載されるのか。それとも、最終提言の各種施策の中に公民館事業を入れて、公民館の役割という形で入れるのか。ここがややふやに思う。

両輪としてやっていくならば、この提言の中に公民館の役割をうまくまとめられるとしたら、どうやって記載するのかというところを、今の状況で結構ですので、ちょっとお話しただけだと思います。

【事務局】 「公民館」という言葉を出すかどうかは別にして、中間とりまとめの中には各種施策の中で、コミュニティの場として提供していくことと情報発信、そして人的支援、特に人材育成という非常に大事な役割を担っているの、それぞれ記載することにな

る。公民館としてのまとめで掲載するのか、重要な役割だと総論的に書いた上で、各種施策に、掲載していくイメージだと思っている。

施策的に分けていて、場・情報・人的支援というのは、中間とりまとめもこの分け方に近いイメージで書いている。それぞれに公民館の役割とか、今後果たすべきこと・果たしていただきたいことなどを、できればより色濃く入れていく方向とは考えている。公民館としてまとめた方が良いというご意見があれば、再度検討する。

【委員】 公民館は社会教育施設としてずっとやってきたから、何となく別途で書く雰囲気があるが、こういうふうにくまなくまとめられると、やっぱり一緒にやっていく必要があると感じられる。そうすると、コミュニティ支援をやっていく中で、どういうところを公民館が担ったらいいかというのが個別にあると思う。そういうものが見えてくることで両輪ということがわかると思うが、アイデアがない。まとめ方が重要だという気がしている。

あと、公民館の公民館長、主事さんとか補助員の方々と、自治協議会の動きというものをうまく説明する時期に来たのかなと思っている。それで、問題提起した。

【委員長】 ほかに公民館の件でご意見はありますか。

【委員】 公民館が、今後、公務員として働くようになって、事業がいっぱい出てくるようになると、どこまで公民館がやればいいのか、各自治協議会、校区で悩んでいるところもある。そういうものさえ整理できたら、これはすごく新たな取り組みになると思っている。

公民館の職員がどこまで自治協の支援をしていけばいいのか、下手すると時間外になる場合もある。公民館がやろうとしていることに自治協議会が、「やっぱりこれぐらいのことを一緒にやりましょう」と、うまくバランスよくやっていけるのが、今からの課題だと思っている。

【委員】 それぞれの地域の公民館であり方というのは少し格差がある。でも確かに、活動の場であったり、特に分けて書いてあるようなことは、多分どこの公民館も大なり小なり取り組んでいる。そうすると、やはり「両輪で」という言葉が入ってくることを考え

たときに、地域において行政と、地域と、公民館もきちんと入った形で共働し、それで公民館という核になる施設をいかに上手に地域が使いながら、共働でやっていけるかが、それぞれの地域で格差があって、あり方がちょっと違う気がする。

それで、自治協議会について考えると、場所と言われると、それこそ事務所すらない。公民館の中に自治協議会の事務局があったり、事務所として使わせてもらったりという現状もかなりの校区ではあると思うが、何か公民館と地域、公民館と自治協議会、これを別々には考えにくいと思っている。だからやっぱり、「これからの公民館の役割」と言われたら、いかに自治協議会と公民館が両輪で、公民館だよりをいかに地域が生かしていけるか、そのためにいかに公民館とタイアップしていけるかがカギになり、地域の自治協議会と公民館とがうまく機能すれば、すごくやりやすいと思っている。ただ、今は自治協議会が公民館に頼り、公民館にあまりにも負担をかけるという実情があるのであれば、もう少し自治協議会としての自立とか公民館のあり方とか、そのこのところをこれから検討していく必要性はあると私は思っている。

だから最終提言としては、「絆」という中で、自治協議会と公民館と行政がこういうふうな感じで、共働で進め方のほうが、良いと思っている。

【委員】 長年、公民館長を務めてきた者として感じるのは、そのときの館長によってかなり違ってくるということ。一生懸命、車の両輪としてやってくださる館長もいれば、運動会、夏祭りなどの大きな事業で、館長、主事は、人によっては「お客さん？」というように見えるときもある。

両輪と位置づけるのであれば、その辺をきちんと整理する必要があると思う。公民館の職員も、自治協議会の活動に手を出していいのか、どこまで口を出していいのか、わからないところもきっとあると思う。要らぬおせっかいをしてはいけないと思って、おとなしくしている場合もある。そこら辺を少し、整理していただくといいのではないかな。人によって違うというのも、いかがなものかなと思う。

【委員】 それがなぜ必要だと感じているのかというと、「絆」と言われたように、企業、事業者との話とかもありますが、超高齢社会時代を迎えたら、直感だが、公民館がしっかりといろいろな窓口にならないと、自治協が最初の窓口になって動くというレベルではないと思う。

行政の公設公営の情報センターがある、そこにいろいろな情報が来るわけですから、そこがいろいろな機能を果たす時期に来ているんじゃないかなと思っている。

【委員長】 以前、公民館自体が目いっぱい使われているという実態調査を聞いたことがある。その中にさらに地域との結びつきを加えていくということが可能なのか。先ほど公民館の仕事の整理と言われたが、もう身動きがとれないんだという報告がかなりあったかと思うが。

【委員】 福岡には146の公民館があつて、146様のあり方があつて、一つには言いあわせない。

トータルの話しかできないが、先ほどの人的な問題として、公民館長によって変わりがありますということがありました。確かにそれは大いにあるかと思っている。それと、自治協議会会長の考え方によっても変わる。

私の校区の公民館は、自治協議会会長自身が、公民館は事務局になってくれ、自治協議会の事務局であつてほしい、自治協議会会長に来る情報も全て把握しておいてほしいと言っている。要するに、自治協議会会長がいつも公民館に詰めているわけではないし、自治協議会会長の部屋というのも別にないので、「こういう案内が来たんだけど」と、公民館に来られている。

また、福岡市の146公民館が自治協とどういう関係を持ったらいいかも、正直迷っているところはある。ですから、皆さんが、公民館にどういう期待を持っているのかを聞きたいと思っている。公民館がどう考えているのかよりも、自治協議会をはじめとする地域の皆さんがどういうふうに公民館とつき合っていきたいと考えているのか、できるだけその期待に沿う形でやっていくことになると思っている。

【委員】 事務員を雇用している自治協議会は、公民館とうまくやっている。私の校区では、公民館が企画するときは自治協議会も応援をする。3世代交流事業などは公民館と自治協議会で企画します。その中で、小学校とかPTA、それから子ども会と一緒に参加するという形になっている。うちは事務員を雇用しているので、公民館長や公民館に迷惑をかけると意識は一切ない。自治協議会に事務員がいないところは、かなり公民館を頼っているところもあるようだ。

【委員】 公民館職員は市から手当をもらっているにもかかわらず地域のことにかわりを持っていいのか。同じ一人の人間を、何分の一は市の嘱託職員として仕事をする、何分の一かは自治協議会としての仕事をするとか縦割りはできないわけだから、そういう線引きそのものが非常にナンセンスな部分もある。

【委員長】 今の件は、公民館が地域コミュニティに人的支援を行うという感じでいいのか。

【委員】 そのとおり。公民館自身にそういう立場があるし、この中に出ている公民館の一つの役割、仕事の内容として、地域の担い手の育成がある。これは大いに公民館が率先して地域の方々の掘り起こしなどの役割を、地域の理解を得て、地域のために尽くしてもらえる方々を育成している。そういうことでは大いにかかわりを持つというか、やることだとは思っている。

【委員】 正直言えば、やっぱりグレーゾーンがある。このグレーゾーンにどう寄り添っていくかが各校区で違っている。

それと、自治協議会で事務局機能を持っているのは、148ある中で半分ちょっとであり、事務局機能がないところは、自治協議会の会長がみんなやっていて、そうすると、周りが手伝ったりしている。だから、公民館が自治協の組織として影響しているというのは事実。この提言の中で一番今回重要だと思うのは、一緒にやろうよという話をするのならば、グレーゾーンもありますと言うということを明らかにすること。その校区の実情ですという話でいいという気がしている。

それと、コミュニティ推進で先進的と言われている宗像あたりのコミュニティセンターのセンター長は、自治組織の事務局長を担っている。指定管理者でやっているから、こちらで言う自治協議会にお金が渡って、その中でセンター長を雇っていて、外部の人から見るとお金をもらっているように見えるが、自治協議会の職員。そうすると、館の運営と自治協議会が一緒になっていて、見方が全然違う。福岡市でいう公民館を運営する館長が自治協議会の事務局長で、一緒にやっっちゃっている。それはそれでメリットもあるし、デメリットもある。

しかし、福岡市は公設公営でしっかりしているから反対に、現状のように真面目にやれば、どこかで線引きしてということになるし、うまくやろうとするならグレーゾーンが出てきて、当然。

私は、グレーゾーンがあって、それぞれの校区が話をしながら、言い方は悪いが、公民館が少しボランティア意識を持ってやりながら、「今回はここまでやったんで、次はこれだけやって」ということもあっていいと思っている。

それについてどういう書き方になるかわからないが、これだけ自治協議会がやれば、どこかでそれがぶつかるから、きちんと先に整理をしておく。私は福岡市の公民館制度を高く評価しているし、他市町村からも一目置かれている。

【委員】 146の各館長さん自身が、迷いがあって、資料5に書かれている形のもものは研修を受けているので当然知っているわけだが、それ以上突っ込んでいいのかわからない。突っ込めば地域のほうとはうまくいく。慎重に考えると距離を置く形になって、それでうまくいかない場合もある。そのちょうどはさまにあって、各館の館長は悩んでいると思う。

だから、こういう機会に、皆さん方が求めている公民館、それと行政で指導する公民館をきちんと仕分けをすれば、またいろいろと地域のためにやれる。ただ、それをしていいのかどうか、踏み切れないものがある。

【委員長】 自治協議会から公民館への要望などはあるか。

【委員】 私のところの例をいうと、自治協議会の事務局は公民館とは別のところにある。会館があり、そこに事務員を置いているので、自治協議会の事務的な仕事は、その事務員がほとんど処理している。事務局長も1人いて、大体2人で事務処理をしている。公民館にいろいろなウエートがかかることは、まずない。ただ、例えば大きな事業の夏祭り、運動会、体育祭、文化祭などは公民館と合同で開催している。公民館と合同で実施するためには、共催事業しかない。

先ほど話が合ったが、公民館だよりは経費の問題もあり、公民館と自治協議会が裏表で掲載している。そういう意味では両輪で一緒にやっているという見方はできる。

【委員】 私がいつも考えるのは、福岡市内に1校区1公民館があること、これを頭に置いて「公民館とは」といつも考える。

確かに、空港対策の一環で、東区、博多区の一部には公民館と同じような会館があるが、頭から1回外して公民館と自治協議会という形でいつも考えている。

私自身は、公民館と自治協議会という違和感もないし、今でも十分だと常に自分の校区では思っている。ですが、私も博多区22校区の公民館のあり方を直接聞いたこともなければ、自治協議会の会長さん方にどうですかと聞いたこともないし、アンケートもとったことがないので、どの地域はうまくいっていて、どこが少しうまくいっていないかなど把握していない。

福岡市は1小学校区に1公民館があつて、これはすごく評価されているわけだから、これをどううまく機能していくか、それをもとに自治協議会のあり方、公民館長のあり方、自治協議会の会長のあり方を検討する必要がある。

【委員】 私のところは非常に公民館ともうまくいっている。

福岡市にお尋ねするが、公民館館長の推薦は大半が自治協議会の会長が推薦しているのか。

【事務局】 各校区で推薦委員会という形で10名おられ、実際は地域の団体の役員など自治協議会から選ばれた方々が館長さんを推薦するということになる。

【委員】 私は、メリットもあるしデメリットもあると思う。聞いた話だが、「あなたを公民館長に推薦するから、私の言うことはきいてくれ」ということもあるようだ。

【委員】 だから、うまくいかないところも出てくるんじゃないかなと思う。そのあたりの推薦委員会のあり方もひとつ検討する必要もある。ほとんどそういうことはないとは思うが。

【委員】 今の公民館の話は、ここに書いてあるコミュニティの将来像にかかわることだと思う。コミュニティはこうあるべきだとも書いても、各校区ばらばらというよりそれぞれ独自のスタイルを持っていて、それで成り立っているのです、どこが悪いとか言えない。そ

それはそれぞれの地区の個性を生かしているため。

公民館と自治協が好循環であればいいので、その好循環をどうにかして評価する。

コミュニティがどうあるべきかという話をするときは、例えば企業の話とか高齢化の話も一緒にやらないと、どっちがどっちかという話をしたら、コミュニティはパンクすると思う。その意味では、公民館と自治協議会のあり方を検討し、こんなやり方もあります、最低限度これは守ってくださいなどの話は今やらないといけないと思っている。そうしないと、今後、コミュニティにかかってくる超高齢社会の対応や、企業との連携・共働などは成し遂げられないという危機感がある。そして、提案力、それから政策提案力があるコミュニティが勝ち残るという世界になると思っている。

だから、基本的にはいろいろなやり方があっていいけれど、今抱えている地域課題を解決するためには、行政と自治協議会と一緒に考えないと動かないと感じている。

それと、館長の推薦については、糸島と福岡は一緒に、地域から推薦している。地域から推薦できない場合、行政から全然関係ない人を推薦してくるということがある。それは成り立っていない、やはり自分たちの関係者ではないので。

議題「企業と地域づくり」について

【委員長】 ご質問、ご意見はありませんか。

【委員】 コンビニをもっと活用するというのはすごくいいと思う。24時間空いているし、何百メートル間隔ぐらいで立地しており、本当に暮らしをサポートしてくれるコンビニであってほしいと思う。

【委員】 今、言われたことの取っかかりが意外と難しい。コンビニを開こうとする場合、意外と公民館に来ている。そのときに自治協議会につないで話ができればいいができていない。

開店する前に少し話しておけば大分違う。自分の校区では、コンビニができるときは協定を結ぶようにしており、災害時の支援などの話をしているが、それで嫌な顔をする人はいない。地域と一緒にやりましょうといって協定を結めば、ウイン・ウインの関係として発展する。

建設の情報を入手するので、そのときに自治協議会や、そのようなことを考えている人が一緒に話をすることを、誰がやるか。相手はそれを望んでいるようだ。

意外に企業も、もうかると思う。だから、防災などは包括で協定を結んでいる。各地域ではあまり接点がないので、全市で動かないと難しいと思う。事業者の人は、そういう話をするすることで、売り上げにつながると、話ができるみたいだ。コンビニをターゲットにするなら、自治協議会と話したらどうですかなどの取り決めができ、最初の切り口ができれば意外に進むような気がする。

【委員】 長年、地域活動をやっていて感じるのは、奥さんが定年退職になったご主人を、地域デビューじゃないけど連れてこられが、なかなかなじめず続かない。中には、うまく溶け込んで、地域活動を続ける方もいるが、大半の方は一、二回来て、なじめなくて帰ってしまっている。

例えば企業に、今年度定年退職された方の地域デビュー説明会をそれぞれの公民館で行い、定年退職される方に、住んでいる公民館に一斉に来てもらう。そして地域行事は年間にこういうのがありますと説明することで、自分の趣味や興味に合ったもので、暇だったら参加してみませんかみたいなことができれば、そこで、初めての人たちで、何人かが集まってあれに出てみようかみたいになるのではないかな。2人でも3人でも同じ境遇の顔見知り地域にいれば、非常に参加しやすいと思う。

そういった知らせを家庭にするのではなく、勤めている企業に、何月何日にあなたの地域で定年退職者説明会を公民館で開催しますなどの通知を出してみる。それで、行政を定年退職した人が中心になってうまくやっていると、高齢化社会でいろいろな人が地域デビューをできるのではないかと感じている。

【委員】 今言われたのはほんとうに理想だが、企業の窓口と、地域がうまく連携するために、どこでどういうふうにつながれば、うまくいくのか。

今の話を聞いていて、住民登録の時に区役所の窓口で、福岡市には町内会とか自治会がありますというPRをやってもらっても、その後がつながっていない。自分の家に帰ったときに、町内会も、新しく転居してきた人たちへ「町内会に入ってください」「町内会があります」という伝達というか連絡みたいなものが、はっきり言ってまだできていない。そのところでまだ機能していない町内会があるのが現状。

だから、そういう中で、定年になられた方を、地域で人材育成して、その人の特技を生かしてもらえるようなことができれば、その方々は地域にとって財産だ。だが、そのためにはどこにどうしていいのかわからないのが現状。

校区には商店があつたり、企業があつたりしても、そことの連携があまりない。どうすればよいのかという部分を、福岡市としてはこうなんです、企業に対しての指針のようなもの、何かそんな文書が出たりしない限り、地域としてやろうとするときついものがある、どうしたらいいかわからないと感じている。

【委員】 情報は、先ほどのコンビニも含めて重要だ。どういう人たちがいるのかわからないから動けない。しかし、わかったとしても簡単には動けない。だから、企業などにあなたの住居の町内会はここだという話をして、公民館に行かれたらどうですかなどの話ができれば、1%でもしかるべき人が来ればよい。しかし結論としては、情報からの一本釣りしかない。しかし、そのとき、一本釣りで一番重要な情報は公民館だと思う。いろいろな人が関わっているから、主事や補助員は非常に目ききですから、大概のリストは作成できるはず。何かのときに、「ちょっとこういうことがあるんですが」と言って、人と人のつながりができていると思っている。

それから、他の事例として、ふくやさんのオーケーが出るなら、社員が各校区にどれだけいるのか情報をいただき、我々は社員の方々に「どうですか」と声をかけ、「ちょっと集まってもらえませんか」という話になれば、会社が支援しているので、先ほどの人たちよりよほどよいのでは。自治協議会も、会社の支援があつて来られた方だったら安心ではないか。

やはり情報が足りていない。情報さえあれば、相手とのキャッチボールができる。企業のほうも考えがあるところから投げかけてみる。しかし、そのためには自治協議会や公民館の両方に相当なモチベーションを持って相手とキャッチボールしないと進まないだろう。情報が重要で、その集め方と使い方次第でいかようにでもできるのではないか。

【委員】 自分の校区では、できるだけ校区内の商店や店舗を活用しようと言っている。そうすると、自然と校区のお店の方たちは、校区の夏祭りとか体育祭のときチラシの広報を出してくださるようになってきた。

一つの例だが、福岡銀行が餅つきをやるときに、校区から10人くらいが参加し、朝か

ら夕方までずっと銀行があいている間、お餅つきの手伝いをしている。そうすると、オレオレ詐欺とかを福銀が寸劇とか練習して、社協の活動のときに、「この前はありがとうございました。ちょっと昼休みを1時間利用して来ましょうか」とか、献血のときなどお願いすると、行員さんが交代で献血に来てくれたりし、そういう形での活動は一生懸命、地域でやっている。

ただ、地域の中で人材を育成していこうとすると、地域の中にいらっしゃる方を少しでもこちらとしては人材育成につなげたいので、情報があって、地域にそういう人がいてうまく取り込むことができたと思う。これから50代、60代、70代前半ぐらいまでの人を育てていくためには、情報がないと、今の地域だけの活動の中では難しいなとは感じている。

【委員長】 その点、ふくやのこの取り組みは、現役のときから地域に入っていくということがよい。

【委員】 多分、ふくやの社長は、小学校でPTAの会長をされて、そのころから、ふくやの従業員として働きながら、地域にすごく重点を置いていた。

【委員長】 企業にとっても、その地域にいる意味を、もう少し自覚していただくというか、それがかえって各企業のインセンティブにもつながっていくということを理解してもらえるとよい。ふくやのような取り組みが増えてくるんじゃないかと思うが、その持っていき方をどうするかが今後の議論になると思う。

【委員】 先ほどのふくやの話でいえば、ブロック別に担当を持っており、西区だったら西区のCSR担当がいて、その人たちと話をしたら、夏祭りは自分たちから出たいって言われることもある。ですから、我々から条件をつけて、ふくやだけを特別扱いすることはできないので、地域に貢献できるようなものをしてくださいと言ったら、向こうから、「今年もうち出しますので」と言われることもある。

それから、萬盛堂は、いろいろなお菓子をつくったり売ったりするのを手伝ってくれる。そういう情報を我々が知っておけば、声をかけることができる。相手は出番を待っているんだと思う。

【委員長】　　ちょっと話が違うかもしれないが、福岡県では朝倉郡がまちの駅という事業をやっているが、福岡市はほとんど立候補がなかった。あの取り組みは結構おもしろいと前から思っている。「まちの駅」というのぼりが、コンビニの前だったりお菓子屋さんの前に立っていて、そこだったら、そのまちの情報をいろいろ教えてくれたり、トイレを貸してくれたり。そういった、ちょっとしたことから地域との接点をつくっている。このような方策も参考になると思った。

— 了 —